

# 米子八幡神社の棟札（江戸期天正年間等）にみる形態と内容

（公開説明会資料、2013年4月）

元米子高専助教・工学博士  
藤木 竜也

はじめに

1. 棟札とはなにか？
2. 全国随一の保有数、鳥取県
3. 鳥取県最古の棟札は三仏堂奥院（投入堂）～永和元年、1375年
4. 米子八幡神社の保有数は70枚      \*資料には、「総数50枚」～訂正
5. 岩手県の中尊寺金色堂棟札最古は

平安時代末期（保安3年、1122年）

## I 米子八幡神社（創立 養老4年 720年）

当社保存の「書上帳」記載の棟札

遷宮月日 天永2年（月日不明） 1111年

## II 八幡神社の棟札の形態と内容

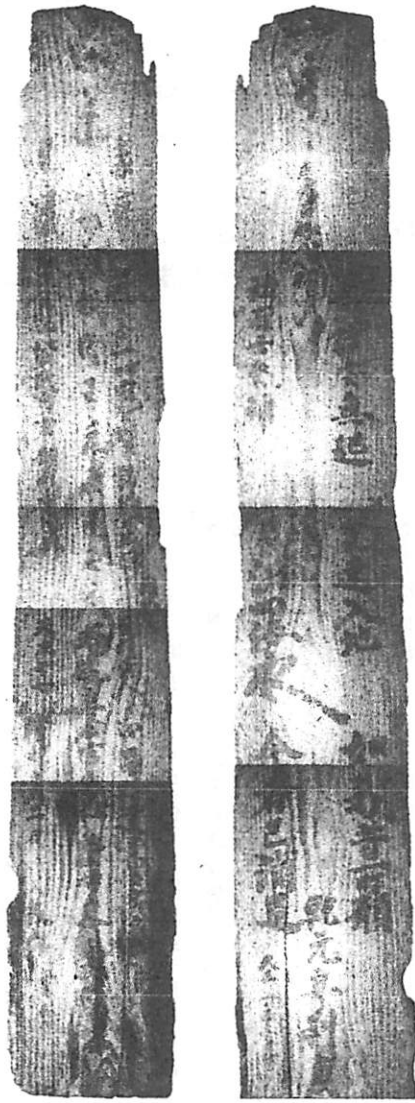
1. 天正年間（12年、17年）の棟札2枚について
2. 元文3（1738）年「八社八幡宮」棟札～八幡神社の社歴記載

「源頼朝が鶴岡八幡宮建立に際して「一國八社八幡宮」を勧請し、当社がその総社であった。」



天正17.(1589)年棟札

総高：1280mm 幅：160mm 材厚：5mm 頭部形状：尖頭型 胴部形状：上下同幅型 材種：松



【表面】

【裏面】

【表】

×四天王の記号：持国天・広目天・增長天・多聞天

梵字(右) ボロン(「二字金輪仏頂」) カンマン(「不動明王」) 一切日皆善一切宿皆賢諸佛皆威徳 国

郡主 吉川蔵人 時 四品拾遺豊臣廣家朝臣

梵字(中央) バン(「大日如来」) ベイ(「薬師瑠璃光如来」) アーク(「大日如来」) ビ(「增長天・広

目天) ラ(「在王如来」) ウーン(「阿如来」) ケン(「三宝荒神」) シャ(「月光菩薩?」) ラク(「金剛幢地

蔵) (「金剛利」) 奉建立若宮尊社 施主神主會見左京丞盛宗 生

梵字(左) ボ(「觀世音菩薩」) ウン(「降三世明王」) 羅瀧皆行満 以斯誠實言 願我常吉祥 天正十七

己丑 年卯月二月 敬白 筆供僧

【裏】

壽語突無起 星速入地 如我昔所願

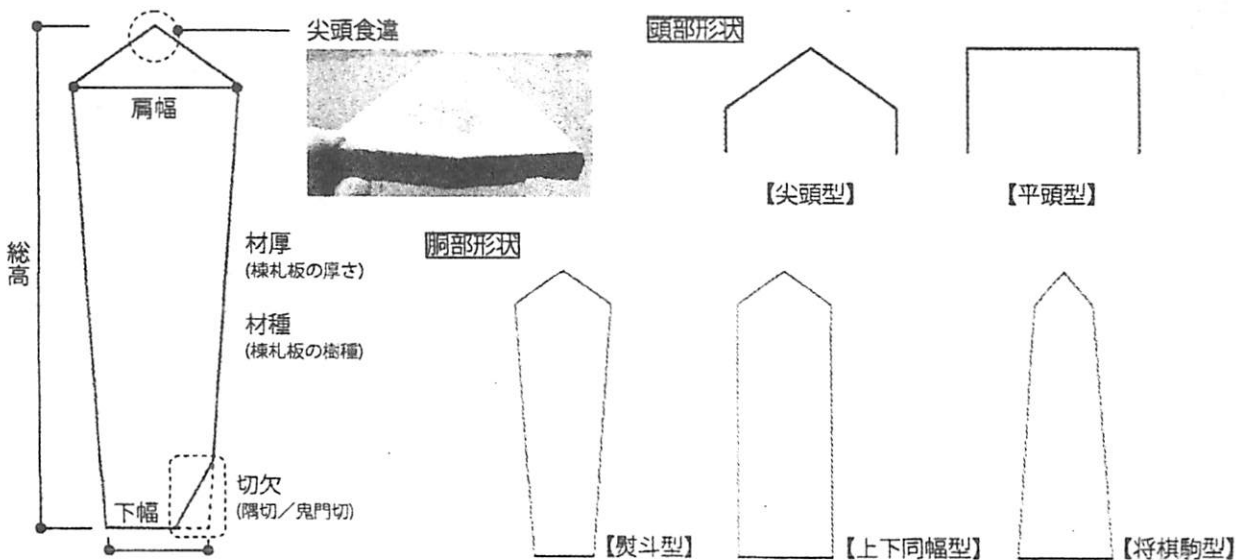
梵字 バン(「大日如来」) 定光古光心念信 乾元亭利貞

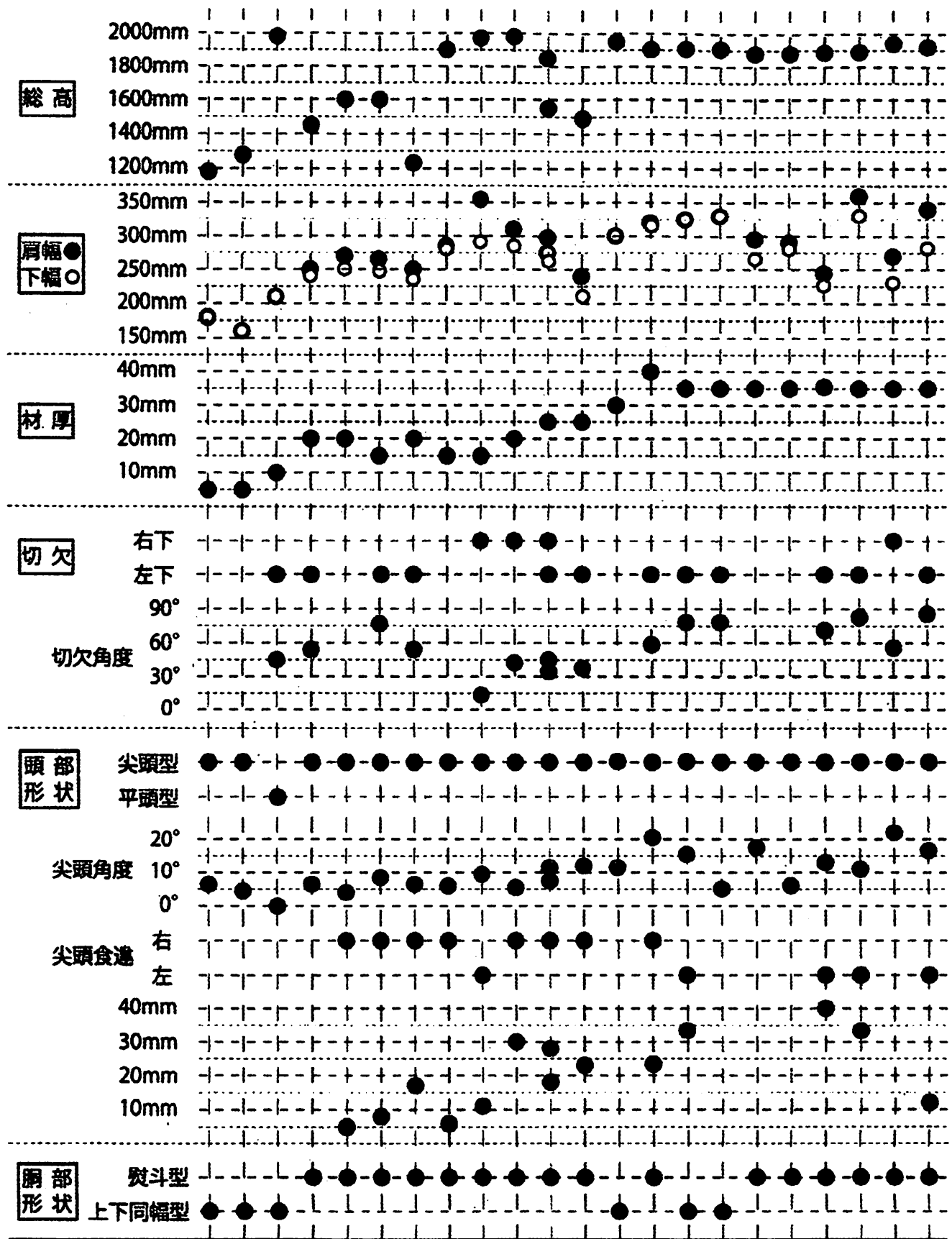
社有壬癸神 日(「洪四海水 今者已満足 大工 力石三郎左衛門

翻字：原豊(「米子工業高等専門学校」)・藤木竜也

※は不明字、( ) は不確定字

八幡神社の棟札形状・内容



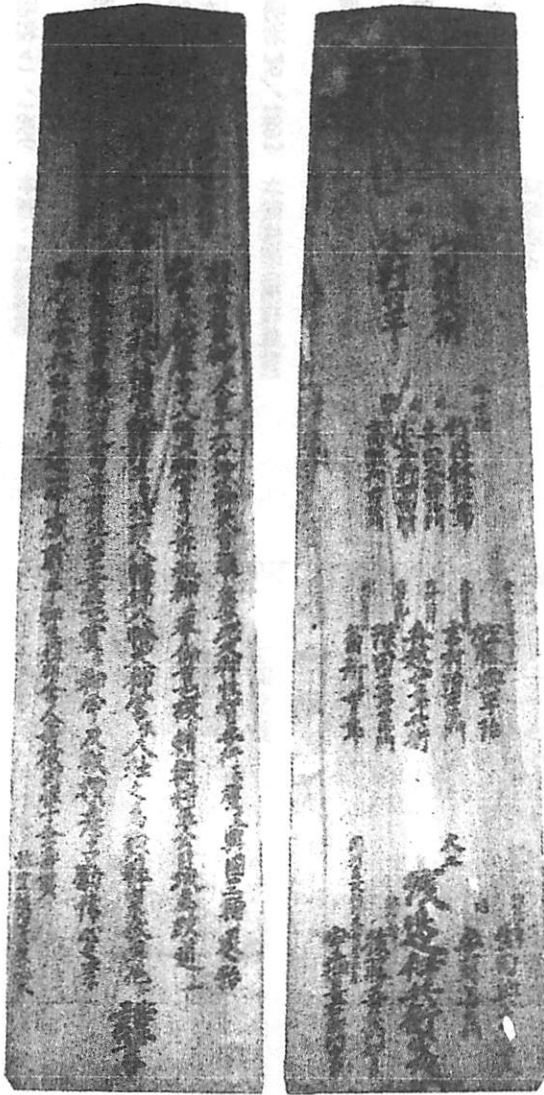


年代 (西暦)	1584	1589	1653	1673	1694	1715	1738	1755	1771	1778	1799	1809	1816	1842	1866	1893	1922	1928	1952	1959	1965	1966
------------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

【八幡神社棟札形状グラフ】







【表面】

【裏面】

翻字…萩原由也(米子工業高等専門学校建築学専攻・藤木竜也)

※■は不明字、( ) は不確定字

【裏】

因伯守松平相模守 天頭社八幡大神宮 少将徐吉泰造米成宇

①謹當社大神波人皇十六代應神天皇奉祭也此大神性智安行尔座言異國三韓退治

②從掌尔納玉奉号八幡大神宮弓箭祖神止奉仰者也故尔頼朝將軍公月拭為政道止

③■于一國八社八幡宮勸請王布然■八幡郷八幡大神宮波八社之為惣社崇敬異尔 謹言

④誠其神德勇強武功威高■廣■至盡也■尔神宇及破■産子勵信心々厚

⑤奉■本宮損社未修造一字成就■神主内藤舍人壽職同性子倉壽廣

称宜住田豊後正家

津田周防 暗味役竹内林治郎 宗善庄屋福乃村加藤興平治 總作善生田興■藤久

乾上総 社奉行山田彌兵衛 同 安田金右衛門 大庄屋石■村吉村治左衛門 同 安藤善左門

池田日向 郡代八木村■平 同 小谷新右衛門 同河岡村舟越七郎兵衛 太工渡邊伊兵衛家次

荒尾長門 郡奉行高瀬作左衛門 同津尾村深田三郎左衛門 惣作善後藤五左衛門智貞

同小森津村角所重郎 因州鳥取河外木町屋赤屋宇塩善右衛門廣吉

鳥取県米子市東八幡：八幡神社棟札に見る形態・内容と中世伯耆・出雲の「八幡宮」：日本建築学会技術報告集に投稿・査読中より抜粋、加筆・修正  
元文3(1738)年棟札には、八幡神社の社歴が記されており、次の記述がなされている。

…頼朝將軍公月拭為政道止■于一國八社八幡宮勸請王布然■八幡郷八幡大神宮波八社之為惣社崇敬異尔…

源頼朝が鶴岡八幡宮の建立に際して「一國八社八幡宮」を勸請し、当社がその総社であったというものである。

- 横田別宮：奥出雲町八川という(曾根研三「出雲国造の治神思想」)。横田八幡宮も同じ起源に発すると見られる。
- 安田別宮：安来市伯太町安田。北八幡と南八幡があり、南八幡宮が本来の位置と伝えられる。
- 赤穴別宮：飯南町赤名に所在する赤穴八幡宮
- 枚浜別宮：松江市竹矢町に所在する平濱八幡宮
- 日蔵別宮：雲南市三刀屋町乙加宮に所在する日倉神社
- 新松別宮：出雲市松寄下に所在する朝山八幡宮に合祀したと伝えられる
- 白上別宮：雲南市大東町下佐世に所在する佐世神社と同所にあったと伝えられる (『島根県史六』)。
- 大田別宮：雲南市三刀屋町殿河内大田にあったと伝えられる (曾根研三「出雲国造の治神思想」)。 出典『新修島根県史 通史編1』1968

類似するものに、出雲国の「八所八幡宮」があり、これは朝廷内における平氏隆盛の契機になったという源義親の乱（1101～1108年）に端を発する、8カ所の石清水八幡宮の分祀することで弱体化していた出雲国の掌握を新たに画策したもので（『東出雲町誌』1978.7など）、これによって既に平氏の知行国であった伯耆国に加え、出雲国にも平氏勢力が浸透し、治承・寿永の乱（源平合戦、1180～1185年）では、これを裏付けるように伯耆・出雲両国共に平氏方に与したことが知られる（『鳥取県史 第2巻』1973.3、『島根県史 通史編(一)』1968）。

つまり、出雲に敷かれた「八所八幡宮」は源頼朝との関連が認められず、八幡神社の元文3（1738）年棟札が伝える「一國八社八幡宮」と同一であるとは考え難い。

島根県内の神社由緒を『神國島根』（1981.4）に見ると、「八所八幡宮」とは別に「八社八幡宮」を散見でき、「世にこれを出雲八所八幡宮（後には八社八幡）ともいう」（南八幡宮神社由緒）などと、半ば同一のものと混同されている。同書より「八社八幡宮」もしくは源頼朝との関連を伝える神社由緒を抜粋し、以下に挙げる。

1. 安田八幡宮（島根県安来市伯太町）

…建久七丙辰年鎌倉右大将源頼朝卿の上使当国へ下り、八社八幡宮と被定…

2. 南八幡宮（島根県安来市伯太町）：安田八幡宮から分祀

…建文七年（一一九六）頼朝は上使田根安房守を遣はし当社を検分させ造営を命じ建永元年（一二〇六）八月遷宮式を行った。

3. 八川八幡宮（島根県奥出雲町八川）

…当社建久七年丙辰十月十五日相州鎌倉鶴岡八幡宮ヲ勧請ス則出雲国八社之内其一社也。…

4. 佐世神社（島根県雲南市大東町）：合併

…境内に鎮座白神八幡宮と称し、由緒は建久年間源右府頼朝の創立にして出雲国八所八幡の一つであり、大正八年十二月本社に合併した。

5. 來次神社（島根県雲南市木次町）

…菅田別命は建久三年、源頼朝が出雲地方に八社を選んで八幡宮を勧請したうちの一社で、いわゆる八社八幡の一つである。…

6. 八幡宮（島根県雲南市三刀屋町）

建久年中右大将源頼朝卿の勧請との口碑也…

7. 由来八幡宮（島根県飯南町頓原）

当社は源頼朝の勧請した出雲八社八幡宮の第四社である。建久七年（一一九五年）源頼朝が臣田根安房守に社地を選定させ、建永元年（一二〇六年）に至って新殿落成し、時の出雲守護佐々木義清に鎮祭させた。

8. 朝山八幡宮（島根県出雲市松寄下町）

…建久三年には源頼朝鶴ヶ岡神威の厚朴を伐りて八幡大神の神像八体を造り出雲国八社八幡宮に泰安せりと云う。世に八社八幡宮を頼朝の創立などと云い伝うるは是に依る。

9. 下庄八幡宮（島根県出雲市下横町）：移築

…口碑に據れば源頼朝公荘園に地頭を置かれし時出雲国には八所八幡宮を勧請神門郡にも亦八所八幡宮を建立せられし其の一社にして、今の下横町波美入六三二番地に相当する地に社殿を創立し下庄八幡宮と称して崇敬せられ…

このように「八社八幡宮」として伝えられるものは、前述の「八所八幡宮」とは本質的に端緒を違えていることが明らかである。『神國島根』の各神社由緒では9社を数えるに及ぶが、後年の分祀などの経緯に理由が考えられそうである。

八幡神社の元文3（1738）年棟札にいう「一國八社八幡宮」と示されたそれは、他の神社由緒においても共通して建久年間（1190～1198年）に源頼朝の関与を伝えるものであった。つまり、先述の出雲における「八社八

幡宮」と同一のものと見做すべきで、伯耆にも「八社八幡宮」が敷かれていたことを伝えると考えてよいだろう。では、八幡神社の他に伯耆の「八社八幡宮」がどれだけ伝えられているかを『鳥取県神社誌』(1935)、『新修鳥取県神社誌 因伯のみやしろ』(2012.6)の神社由緒から以下に示す。

1. 國信神社（鳥取県西伯郡大山町）

…建久二年源頼朝佐々木高綱をして近國を巡視せしめし時、高綱當社の由來を聞き源家長久を祓らしめん為め當社を再建し…

2. 福田正八幡宮（鳥取県西伯郡南部町）

創立年代不詳、後鳥羽天皇の御時將軍源頼朝國々に令して八幡宮を勧請せらる、當社も其例なり…

3. 佐川神社（鳥取県日野郡江府町）

創立年代詳ならざれども、舊記に據れば往古豊前國宇佐宮より勧請し、一國八社八幡宮の一社と唱ふ…

4. 大港神社（鳥取県境港市栄町）

『境港沿革史』には、源頼朝が勧請し伯耆国八社八幡の一つとしたと伝えられ、建久七年（一一九六）佐々木義清が幕府の代参として、弓矢・神馬を奉納…

伯耆の「八社八幡宮」は、このように現時点で八幡神社を加えて5社でしか把握出来ていない。また、因幡国や石見国において「八社八幡宮」もしくは源頼朝との関係性を伝える神社は特に見出せず、八幡神社元文3（1738）年棟札がいうような「八社八幡宮」が「諸国」を通じて敷かれていた確証は乏しい。鎌倉幕府開府間もない建久年間（1190～1198年）に「八社八幡宮」が敷かれたことは、伯耆・出雲の両国ともが、元々平氏勢力の浸透する地であり、鎌倉幕府新政権の勢力拡大を図る祭政一致の策を講じたものであったのではないだろうかと考えられそうである。

2013.04.13 藤木竜也